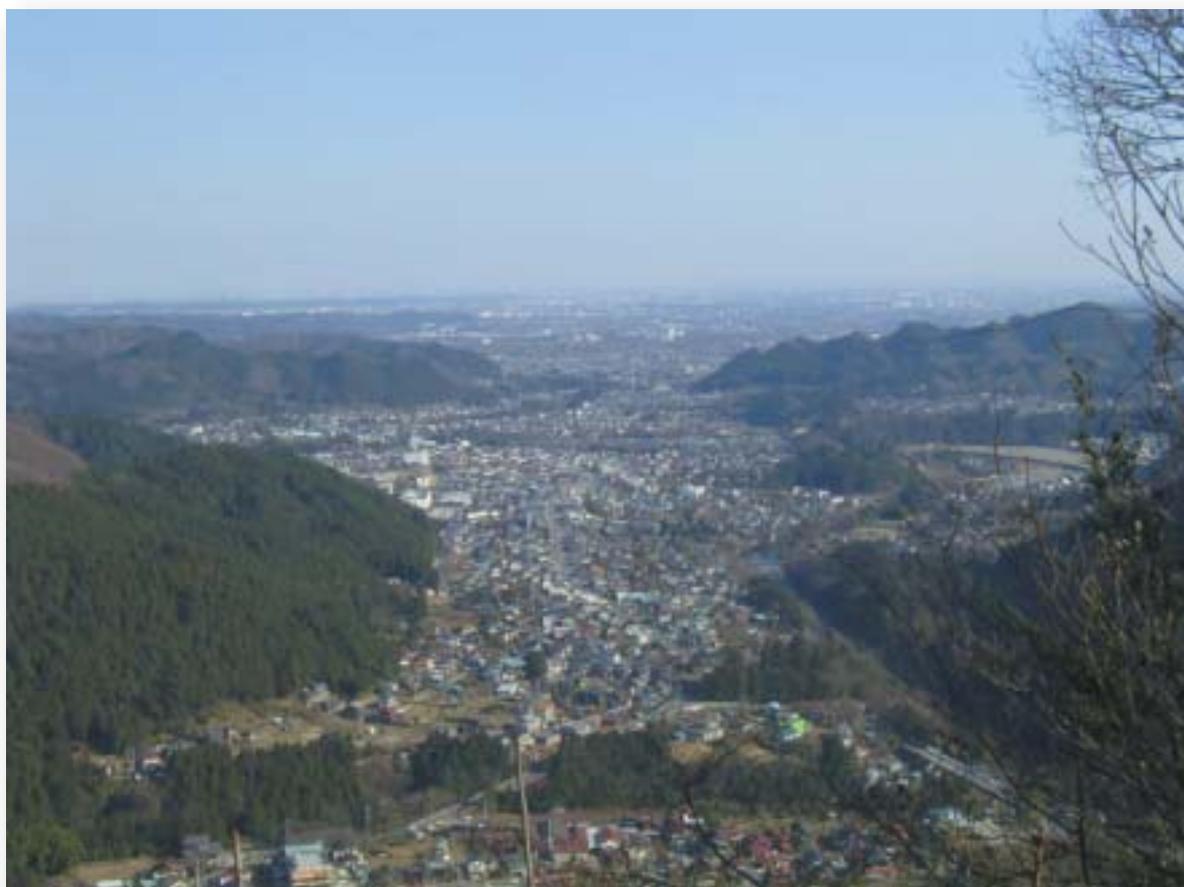


男女共同参画



城山から見たあきる野市

特集

女のクセに！ 男のクセに！ それってなに？ 地域の元気は女性から…

せに！ それってなに？

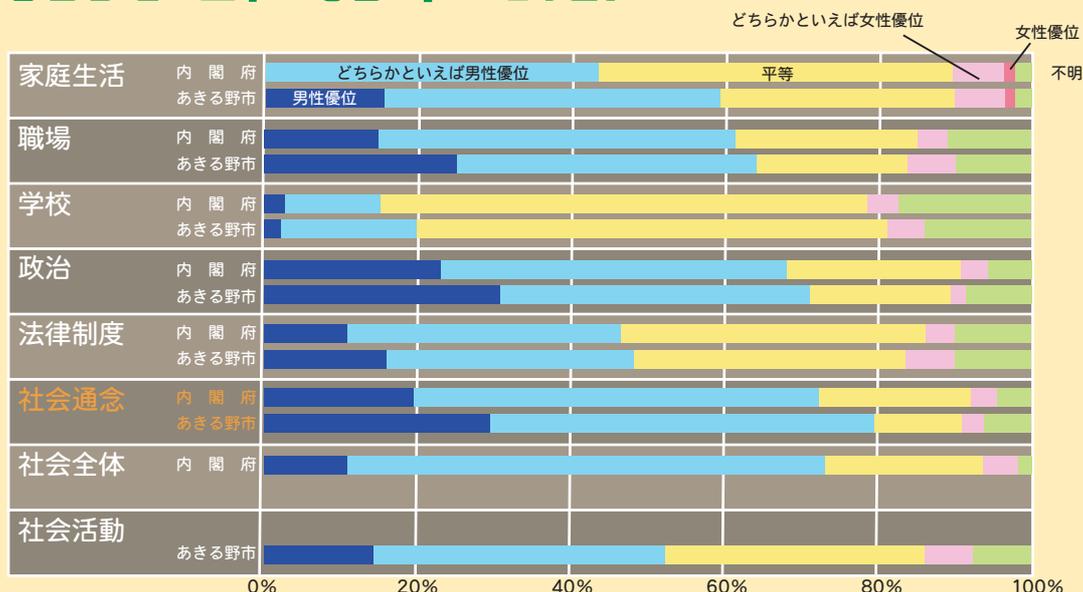
1 男女共同参画社会と男女平等

男性でも女性でも、誰にとっても住みやすい社会とは、どんな社会でしょう。

それは自分の意思によって社会のあらゆる分野での活動に参画できる機会が確保されていることが前提になります。今までは政治・経済・社会の場で活動する女性が少数でした。そのため、男性からの視点や価値観が社会のしくみに多く組み込まれています。女性を含めた多くの人の視点や価値観からみた働き方、子育て、介護、地域との係わり合いなどは現在の姿と異なるかも知れません。

男女が対等な活動の場を築いて、互いの視点から創られた地域社会は住民にとって住みよいものでしょう。市民が政治・経済・社会で少数派であった女性の活動を積極的に支援し、皆が「男女は平等」と実感することも必要でしょう。

2 男女地位の平等感



内閣府とあきる野市の調査結果の比較

全国平均 平等感 (高い) 学校 > 家庭生活 > 法律・制度 > 職場 > 政治 > **社会通念** (低い)

あきる野市 平等感 (高い) 学校 > 法律・制度 > 社会活動 > 家庭生活 > 職場 > 政治 > **社会通念** (低い)

この調査結果から、社会通念が全国でもあきる野市でも最も平等感が低いことがわかります。

以降は、社会通念について考えてみます。

※グラフデータ…内閣府大臣官房広報室、平成19年8月実施 男女共同参画社会に関する調査から
あきる野市、平成19年12月実施 あきる野男女共同参画に関する意識調査から

女のクセに！ 男のク

3 社会通念の影響

私たちが社会で、ある活動を選ぶことを考えてみます。例えば、大学や大学院への進学、就業しながらの育児や介護、PTA や町内会・自治会の会長や役職への就任等です。その時私たちは「女のクセに……」「男のクセに……」「男は仕事、女は家庭」「会長は男、女は補助の役」「表の仕事は男、女は裏の仕事」「育児や介護は女の役割」「子どもができたら女は家庭」などの「社会の通念」の影響を受けることはありませんか。

男女共同参画社会をめざすためにはこのような性別による固定的な役割分担を反映する社会通念や慣行を見直して、個人の意思に影響を与えないように努めることが必要です。

4 女性こそ地域の改革者！

女性が中心の地域活動はあきる野市に多くあります。これらの活動は幾多の障害を本人の情熱や努力、家族や住民の支援・協力で乗り越えて来ました。そしてその活動は地域が抱える様々な課題を解決してきたのです。活動を通して多くの人が、自己や他人の成長、そして、必要とされている自己の存在に喜びを覚えたようです。

周囲の人々の意識や行動も変り、性別による固定的な役割分担意識が減少してきています。次頁以降に活動を担った一部の方の体験を紹介しています。あきる野市が新しい魅力のある地域に変化しています。女性パワーを引き出しましょう！

女性の活躍が鍵です。



地域の 元気は 女性から

座談会



いとう みつこ
伊東 満子 さん
あきる野市健康づくり推進協議会 会長



おやまだ せつこ
小山田 勢津子 さん
流域“学び”の会 代表



せんだ ようこ
千田 洋子 さん
いずみの会生活学校 会長

事務局 ●男女共同参画情報誌第21号は、慣習などにおける男女共同参画の取り組みを考えていくことになりました。そこで、地域で活躍する女性の方にそれぞれの立場からのお話をお伺いしたいとお集まり願いました。よろしくお願いたします。

平野 ●なぜ、これを企画したかという、男女共同参画というのには男も女も同等に社会に対して責任を負い、共同で社会を作っていくということであり、男女が平等感を持って自分の意思を重要視していかなければできないことです。ところが、調査によるとあきる野市ではこの平等感が低い。特に社会通念、慣習、しきたりに関しては男性優位と感じている人が多い。何で平等感があるのか？ 平等感を高める

のにはどうしたらよいか？ その辺に焦点を当てて座談会を進めていきたいと思えます。始めに活動の動機から話をいただければ……。

千田 26年前、PTA活動でできた人の輪を基に、女性の自立のための勉強の場として、「いずみの会生活学校」を発足させました。「人生をより豊かに、より住みよい社会づくりを」が会の目的です。

小山田 地域の子どもさん小中高生に英語を教え、つき合っていくうちに、親の意識が変わらなると、子どもの教育はできないと実感し親の勉強会を始めました。月1回30歳代から70歳ぐらいまでの参加者で20年間続いています。また、4年前から教育は皆

で手をつないでやりましょうとの思いで、「流域“学び”の会」を結成。子どもにとって真に大切なものは何かを学びあっています。

伊東 子育てから手が離れた時、何か地域に恩返しできる事はなにかと思案していたころ、鳥居場合館で「健康リズム体操」を見て体操会に入り、その後地域の方とできることはと思い健康づくり推進委員を引き受けました。

石川 ●活動で何か障害はありましたか？ また、どうやって乗り越えましたか？

千田 PTA会長に推薦された時は、年子3人の子育ての真っ最中

でしたので、躊躇ちゅうちゅうしていたところ、夫の「やってみたら」の一声で、引き受けようと思えました。

伊東 推進委員を受けた当初は、何をしていいかわからず、ただただ「いき事業」開始のお願いをした時も、なかなか受け入れていただけませんでした。ただ、「やらせていただきます」と開催に踏み切ってしまった。また、立场上男性ばかりの会議に出席しなければならぬ時「どうしよう！」と戸惑いもありましたが、勇気を持って外に出ることで知識を得て、自分自身に力をつけることで克服しました。

小山田 私は最近やっと地域に受け入れてもらったと感じています。

私も子どもも地域の小学校を出ていないのでよそ者のようでしたが、他市で講演活動をしているうちに、地域の講演にも呼ばれるようになりました。

伊東

町内会の役員さんは、ほとんど男性なので、地域活動のお願いなど難しいことがありましたが、現在は「ふれあい委員、民生・児童委員」の方々と横のつながりもできて、町内会の連携も強くなり地域に根付くことができています。

千田

私は南秋留小で「読み聞かせ」「味噌作り」など指導している中、青少年とも信頼関係が厚くなり地域が非常に安定しています。

大本 ●PTA役員はやりたくないとはっきりいう人がいますが……。

小山

地域、家族構成で一概には言えませんが、私などの時代はその様には言えませんでした。時の流れがあるのでしょね。しかし、自分の楽しみのために時間を使う事はできても、他人のためにはできないという場合、自分でバリアを作っているのではないのでしょうか。初めは仕方なく活動に参加する人でも、一年経てば、自分の視野が広がり成長したと感じる人も少なくありません。

代田 ●女性が自治会活動に参加するためにどうしたらいいですか。

千田

今の女性たち自身に、担っていくという意識があるかどうかの問題です。自治会に参加するためには人の立場に立てること、前向きな行動力を持つことが大切です。

小山

そうですね。忙しい中でどれだけ人のために時間を使えるか。本当は、人のためになることが、人間として最高の喜びのほうですが……。地域社会に参加するのが苦手な人もいるわけで、そういう人を仲間に引き入れて、役割を担ってもらうと良いと思います。そして、自分が誰かに必要とされていると分かった時、役立つ喜びを知って、千田さんも言われたように、前向きな行動が出てくる気がします。

山崎 ●なぜ、あきる野市では社会通念、慣習で男性優位と感じる人が多いのでしょうか？

伊東

氏子制度や伝統行事を受け継いでいくことがあるからではないのでしょうか？

小山

古くから神社を中心として形成されてきた伝統や習慣がある

りますが……旧住民、神社、氏子、地縁の人、そこに新住民が加わり良い関係に変わってきています。最近私の地域で隣人パーティがありました。若い人達が中心になり、旧住民に気配りしながらパーティの準備から報告までしました。大変盛り上がり、地域が変わりつつあることを感じました。

千田

今はちょうど世代交代の時期に来ていていると思います。PTAはじめ地域の若い世代も一緒に「どんど焼き」「祭りみこし」など伝統文化の継承に力を入れています。

斉藤 ●男女平等感を高めるにはどうしたらよいでしょうか？

小山

女性自身が様々なやり方を学ぶことも必要かもしれません。私は50歳になって大学院にいきました。夫は気持ちよくお金も出してくれ、時々食費の支度もしてくれているようになりました。私の家では一番忙しい人を皆で手伝うことになっています。

伊東

女性も時には積極的になることです。我が家でも男だから女だからではなく、手の空いている人がやる。ずっとそうやってやってきました。

千田

まったく同じです。子育てから夫と共にやってきました。女性の自立とは自分の考えを持ち社会性を持つことだと思っています。人との係わりの中で人は成長します。広い知識と愛情をもっていくことではないでしょうか。

小山

最終的には、男性も女性も心のバランスを保てることで幸せになるのだと思います。それには思いやりをもって生きていくことではないでしょうか。今、あきる野市も変わりつつあります。10年後にはかなり変わって、いい関係になっていますよ。

平野 ●基本は「思いやり」なんですね。思いやりが一番なんですね。

全員

「そうです！」

事務局 ●2日間にわたり有難うございました。



友永 眸さん

健康づくり推進委員として8年間、現在はふれあい福祉委員として活動中。深沢小さな美術館でお聞きしました。

24年前に転入

友永さんの家は、夫婦自らこつこつと改築したもので、現在も作業中です。始めた時、近所への挨拶を欠いたため、自治会から事情の問い合わせもありました。「失敗しました」と友永さんは笑います。

五日市北部にある深沢地区は約30世帯、約80人が住んでおり、地縁続きの人が多い地域。1985年、東大和から転入してきた夫妻は、当初遠巻きに見られていたようです。そんな中、友永さんは町民運動会の応援団長をかってでるなど積極的に地域に関わっていきました。

健康づくり推進委員に

95年、あきる野市誕生に伴い、五



ともなが・ひとみ
ふれあい福祉委員

日市地区で健康づくり推進活動が開始。友永さんは推進委員に選出され、これが活動のスタートになりました。委員活動とは、運動・休養・栄養についての研修を受け、地域に広めることです。さらに「各人の持っている能力を生かすこと」や「人の集う機会を作ること」など、地域活性化のために大切なこともこの時に学びました。

展覧会を実施

深沢は冬場、人との接触が少なくなる地域。さらには住民の高齢化が進み、地域の祭りは縮小化されています。友永さんは「集まる機会がある方が良いのでは。私にできること（はないか）」と考えます。人の作品を

見て、それぞれが何か感じ取ってくれば良いとの思いから今から約5年前、地区会館での展覧会を企画。参加の声かけをすると男女共に快く作品を出してくれました。

展覧会では作品（洋服、写真、ステンドグラス、写経、山野草、育てた草花等）を前に「今までどういう人か知らなかったけど、こういう物を作る人だったんだ」「すげー、あの人はこんな事をやってたのか」と驚きの声が上がりました。昔からの住人同士でも知らなかった一面を知る機会となったようです。友永さんは「出品した人が他の人を連れてきてくれ、みんなが楽しみにしてくれました」と話します。

また、絵を出品してもらうため、絵画講習会も開きました。「下手だ

から出せない」と言う人もいますが、私はどんな絵にも味があると思います。恥だと考えずに出品してもらいたいと考えました」と自ら進んで絵を描きました。

常に笑いとダンスあり

独創的なジャズダンスを行う友永さんは敬老会など行事の時に踊ります。またユーモアたっぷりに指導するため、参加者も一緒に楽しく踊るそうです。さらには『グループにこにこ』を立ち上げ、老人ホームへ歌や踊りの出張もしています。

「とにかく楽しい」「音楽が始まると体が動き出す様子は正にダンスの原点」と、彼女を知る人は話します。

取材を終えて

友永さんは「やっていて私が面白いです。みんなが賛同してくれるからうれしいし、（転入前に比べて）ここに来てからの自分の方が楽しいです。」と話します。

自ら自然体で楽しみ、周りの人々も楽しんでいる様子が伺われました。

沖倉時代さん

町内会・自治会長の中で数少ない
女性会長(寺岡自治会)を、自宅に訪
ねてお聞きしました。

今までの自治会

自治会の会合に参加して、いつも
発言しては却下されながら、それで
も常に発言し続けていました。男性
は思ってもなかなか発言しませ
んので、私が一番目立ってしまった
のかなと思います。そんな中で自治
会の人達の高齢化等もあり、役員を



おきくら・ときよ
寺岡自治会長

やろうとする人がなかなかいなく
なってきました。

自治会長になった

動機と不安

役員決めの話し合いを何回もして
いるうちに、解散という話まで出て
来てしまったのです。でも、私たち
が年を取ったとき、それでは困ると
いう気持ちで、私が手を上げたわけ
です。この地が、だんだん元気がな
くなってきましたので、「元気を出
そうよ!」という気持ちがありまし
た。山の中だからこそ隣近所との繋
がりが必要だと思えます。年齢を重
ねるにしたがって、ここがとても素
晴らしい所だと気づくようになり、
住み良い所にしたと強く思うよう
になってきました。ただ、私にこの
仕事ができるだろうか、協力しても
らえるだろうか、災害があったとき
などいろいろ心配でした。

『女性の自治会長も

ありなんだ』

共有林の下刈りというこの地特有
の大変な役目があり、仕事内容から
見て男性でなくてはと思うこともあ

りますが、困った事、分からない事
は、地区の長老の方や他の自治会長
さんに相談したりして協力してもら
い助かっています。また、今までに
考えたことがなかったのか、他の自
治会長さんに『女性の自治会長もあ
りなんだ』と言われたこともありま
す。

自治会の会合では、私が女性のせ
いか以前より意見が言いやすくなり、
男性の発言も多く活発になりました。
会議も皆さんの合意で進められるよ
うになり、信頼して役割をお願いし
ています。

行事などの連絡は、気持ちを伝え
るために電話ではなく顔を見て話し
たり、声をかけるように気をつけて
います。緩やかなまとまりとなって
きましたね。また、行政とのやり取
りでも直接会ってお話しています。

今、一番重要なのは、防災につい
てです。皆さんの協力を得て築いて
いきたいと思っています。

家族の協力

自治会長は、何かと先立って挨拶
する場面が多いのですが、以前は内
向的だった私でも、PTAの役員か
ら始まって、やはりいろいろなこと

を経験してみることで、話せるよう
になりました。人との出会いは楽し
いです。

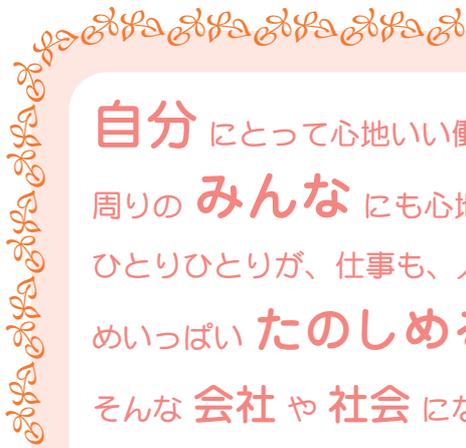
夫が一番の理解者として後押しし
てくれていますし、家族も協力して
くれて心良く送り出してもらって
います。やりがいもあり私自身が充実
した毎日です。自分はどうなっても
いい、開き直って地域のために頑張
りたいと思います。

取材を終えて

生き生きとして語る彼女から大き
なパワーをいっぱいいただいたとい
う気持ちです。

女性だから助かったという点も
あったことですが、女性は改
革者なんですね。何事にも前向きに
考え行動する沖倉さんの活躍は、こ
れからのあきる野市に影響を与えて
くれるでしょう。





自分にとって心地いい働き方が

周りの **みんな**にも心地よく響くといいね。

ひとりひとりが、仕事も、人生も、

めいっぱい **たのしめる**

そんな **会社**や **社会**になるといいね。

たとえば「会議はみんなで1時間と決めてみる」とか

「朝、To Do リストを作ってみる」とか

……働き方を変えることで

プライベートをたのしむ時間をつくり出す。

社長も、ベテランも、新人も、

サラリーマンも、ワーキングマザーも……

「**仕事と生活の調和**（ワーク・ライフ・バランス）」の実現に向けて、仕事のやり方を何かひとつ、今日から変えてみませんか？

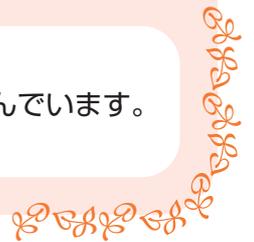
ひとつ「働き方」を変えてみよう！



カエル！ ジャパン

Change! JPN

内閣府では、平成20年度を「仕事と生活の調和元年」と位置づけ、「働き方」を変えるためのキャンペーンとして、**カエル！ ジャパン**を合言葉に取り組んでいます。皆さんもあなたのできることからひとつ変えてみませんか？



編集後記

- ◆ やっと男女共同参画社会へ向けてスタートラインに立ったところです。I'm exciting！
(石川 光代)
- ◆ 力強く、しなやかで、ユーモアもあり……と魅力あふれる方々。お会いできてよかった！
(大木 浩子)
- ◆ 『自治会長＝男性』という固定観念をひっくり返され、目から鱗の企画でした！
(齋藤 映子)
- ◆ 生き生きと行動する女性たちの心意気が伝わるといいのですが……。 (代田 富貴子)
- ◆ 「……………」 (平野 博典)
- ◆ 日々学びながら少しでも市民の皆さんにお役に立てる情報誌ができるよう努力して参りたいと思います。 (山崎 経子)

表紙写真 宮本 由美子 さん

「エフ・ウェイブ」は公募の市民編集委員により編集しています。

わかちあう仕事も家庭も喜びも

平成20年度 男女共同参画週間標語最優秀作品

Information

インフォメーション

第13回

女と男のライフフォーラム

inあきる野

※詳しくは、「広報あきる野」でお知らせいたします。

- 日時 平成21年2月8日(日)
午後1時30分から(予定)
- 場所 ルピアホール(あきる野ルピア3階)
- 講師 森田ゆりさん
(エンパワメントセンター主宰)